



令和6年3月28日
水管理・国土保全局下水道部

下水処理場運転操作へのAI導入に向けた提言がとりまとめられました

～「下水処理場運転操作へのAI導入に向けた環境整備に関するあり方について」～

○下水道DXの一環である下水処理場運転操作へのAI導入に向け、国土交通省では下水道革新的技術実証事業（B-DASH）にて、「AIを活用した水処理運転操作の最適化支援技術」の実証を行っています。また、複数の地方公共団体等でも、企業と共同で下水処理場の運転操作にAIを活用する実証研究が実施されています。

○このような状況を踏まえ、令和4年度より、有識者等からなる「AIによる下水処理場運転操作デジタルトランスフォーメーション（DX）検討会」において、下水道管理者が水処理運転操作等にAI導入を検討するにあたり参考となるAI導入の効果や導入モデル、必要な環境整備等を議論してきました。

○このたび、同検討会における議論を経て、「AI導入及び運用に必要な運転データの取得（ベンダーロックイン[※]解消に向けた環境整備）」「信頼性の確保」「透明性の確保」「技術開発・導入促進」の観点から、「下水処理場運転操作へのAI導入に向けた環境整備に関するあり方について」が提言としてとりまとめられました。

○「下水処理場運転操作へのAI導入に向けた環境整備に関するあり方について」は、これまでの検討会資料とあわせて、ホームページで公開しています。

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/mizukokudo_sewage_tk_000774.html

※ベンダーロックイン：既存システムと通信が必要な新規システムを構築する場合、既存システムベンダーが独自の通信仕様を採用しているため、他社ベンダーが参入困難な状態を指す。

<問い合わせ先>

水管理・国土保全局 下水道部 下水道企画課 下水道国際・技術室

下水道国際推進官 工藤、環境技術係長 伊波

TEL：03-5253-8111 [内線：34172、34134] 03-5253-8803(直通)